

# Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



MIS036-P98

会場: コンベンションホール

時間: 5月27日 14:15-16:15

## 2011年東北地方太平洋沖地震後の地震活動の変化? 東北地方北部?

### Change in seismic activity in the northern part of Tohoku district after the 2011 Off the Pacific Coast of Tohoku Earthq

小菅 正裕<sup>1\*</sup>

Masahiro Kosuga<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 弘前大学理工学研究科

<sup>1</sup> Fac. Sci. Tech., Hirosaki University

我々は、東北地方北部の地震観測点の波形データの手動検測値を基に、2011年東北地方太平洋沖地震後の同地域の地震活動の変化を調査した。内陸地域においては、特に秋田県において顕著に活動度が上昇したが、東北地方太平洋沖地震前に地震活動が活発であった地域においては活動が静穏化した。静穏化が顕著な領域は、下北半島地域、岩木山北東部、岩手県北部の一戸周辺、岩手・秋田県境の脊梁山地付近などである。一方、活動が活発になったのは、北秋田市付近、田沢湖の南、及び大仙市北東部で、これまでに目立った地震活動が見られなかった地域である。これらの地域で発生した地震の震源メカニズム解は横ずれ型で、十和田湖の東において発生した地震のメカニズム解は正断層型であった。これらのメカニズム解は、東北地方太平洋沖地震前に地震活動が活発であった地域において卓越していたメカニズム解（東西圧縮の逆断層型）とは明瞭に異なる。従って、東北地方太平洋沖地震後の内陸の応力場は、東西圧縮の逆断層型に対しては不調和なものとなり、これまでの活動が見られなかった地域における横ずれ型または正断層型の地震の発生を促進するようなものとなったことが考えられる。

#### 謝辞

震源決定には東北大学、北海道大学、気象庁、独立行政法人防災科学技術研究所、青森県の地震観測点の波形データを使用させていただきました。関係諸機関に厚くお礼申し上げます。

キーワード: 東北地方太平洋沖地震, 震源分布, 余震活動, 震源メカニズム, 応力変化

Keywords: 2011 Off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake, hypocenter distribution, aftershock activity, focal mechanisms, stress change